

入鹿小だより

熊野市立入鹿小学校
校長 樋口 佳洋
平成 29 年 11 月 16 日
第 16 号

みんなで作ったカレーはおいしいね！

10月31日（火）に、入鹿小学校の伝統行事、「カレー遠足」が千枚田オートキャンプ場をお借りして行われました。週末の台風接近により施設等に不具合が生じていないか心配もしましたが、全く問題はありませんでした。おまけに当日は朝こそ少し冷え込んだものの、日中は穏やかで、日向にいと暑いくらいのお天気に恵まれたいい日になりました。

1年生から6年生までの全員が力を合わせてカレー作りに取り組みます。1年生は野菜の皮をむくといった1年生にもできることを、5・6年生は火をくべるなど上級生にしかできないことを、それぞれがグループごとにうまく役割分担しながらカレーを作りました。

無事、火が起こり、材料も切り分け、かまどの火の熱さと格闘しながら鍋に入れた材料を焦がさないよう混ぜること約1時間。どのグループもおもしろいカレーを完成させました。

4つのグループに分かれてカレーを作ったのですが、実は私はすべてのグループのカレーを食べました。意識して少しずつにしたつもりですが、どのグループのカレーもとておいしかったので、ついつい、食べ過ぎてしまいました。

この行事、ずいぶん前から行われていると聞いたので、いつごろから行われているのか学校に残っている資料で調べてみました。少なくとも平成元年には木津呂で行われていたことはわかりましたが、それ以前のことはわかりませんでした。多分、もっと前から行われているのでしょうか。ご存知の方は是非、教えていただければ幸いです。



【入鹿小学校 97-0029】

お詫びと訂正（追加）

学校だより前号の「11月の予定」の予定で、以下のことが抜けておりました。申し訳ございません。

22日（水）紀南学校音楽発表会（熊野市民会館で）

マナウスの日本食事情

海外旅行中や、帰ってきたときに、「どうしても日本食が食べたくって途中で食べたよ」とか、「あー日本食がなつかしい」とおっしゃる方がみえます。たとえ1週間でも普段食べ慣れていないものばかり食べるのはちょっと、とおっしゃる方が多いのではないのでしょうか。今や、日本の文化は世界に広がっていますから、たいていの観光地に行けば日本食レストランはあります。ただし、経営者が日本人かどうかは別のお話です。マナウスもアマゾン観光の基地的な存在ですから、日本食レストランは数軒ありました。ただし、食材を揃えるのに日本のようにいきませんから、当然のことながら割高になってしまいます。

ではここで問題です。ブラジル人に一番人気がある日本食は何でしょうか？

正解は「焼きそば」です。寿司、てんぷら、すき焼きなどを思い浮かべたかもしれませんが、なぜか焼きそばが一番人気なのです。なので「YAKISOBA」できちんと通ります。

観光客なら、毎食レストランで食事となりますが、そこに住んでいる者にとってはそうはいきません。日本でいるときと同じく自宅で食事を作ることになります。そこで活躍するのが日本の食材を扱うスーパーマーケットです。幸いブラジルには移民された日系の方がたくさんみえるので、マナウスのような田舎の町でも日本の食材を扱うスーパーが数軒あります。その経営者は日系の方です。現地のスーパーでもあるわけですから、現地の物も売っています。店の一角に日本の食材コーナーがあり、みそやかつおだし、しょうゆ、カレールーなど、ひとつおりの品物は売っています。ただし、日本から輸送されてきたものなので、値段は日本よりは割高になります。

このようにブラジルでもいろいろなものを買おうと思えば買えるのですが、割高だということは赴任前に聞いていたので、赴任時の荷物には日本の食材、特に日持ちのする調味料を中心にたっぷり買い込んで段ボールに詰めて運びました。

ちなみに右の写真は我が家がアパートに移って初めての夕食のメニューです。白ごはん、焼き肉、茹でたジャガイモ、マカロニサラダ、インゲンのおひたし。和食と言えるかどうかは微妙ですが、日本とさほど変わりないですね。このとき日本から持って行って使ったものは、しょうゆとマヨネーズくらいだったでしょうか。



ただ、いくら日系スーパーでも刺身だけは売っていません。特に年中夏のマナウスでは皆無です。魚が刺身に出来るような状態で流通していないからです。刺身を食べたければ、自分で釣って来るしかありません。そんな様子はいつかこの紙面で報告しようと思います。

とは言え、我が家は現地の食べ物も積極的に食べたり作ったりしました。せっかく日本の裏側へ行かせていただいたのですから、ブラジルを楽しまない手はありませんからね。